プラン・ニュース［2020 Summer］NO.114

PLAN NEWS



スペシャルインタビュー

新型コロナウイルス感染症への取り組み

プラン・インターナショナル エグゼクティブディレクター

ダミアン・クウィリー

プラン・スポンサーシップ

チャイルドの健康と未来を守るために

グローバル・プロジェクト

ラオス 少数民族の子どもたちの教育を支援

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

エボラ出血熱から学んだ パンデミック下の支援のありかた

グローバルプログラムオペレーション　エグゼクティブ・ディレクター
ダミアン・クウィリー



Profile
アイルランドの政府開発プログラムへの従事などを経て、2008年にプラン・インターナショナル入職。2010年のハイチ大地震では現場で緊急支援に従事。2014〜2015年のギニア、リベリア、シエラレオネでのエボラ出血熱の対応では陣頭指揮をとった。プラン全体のプログラム責任者に着任後は、子どもと若者、とりわけ女の子の課題解決を推し進め、より良い活動を目指し、世界中を飛び回っている。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下略）の拡大による被害が、世界的に深刻さを増しています。
プラン・インターナショナルは特に保健衛生・医療体制が脆弱な途上国での
甚大な影響を危惧し、感染拡大防止を最優先に活動しています。
活動国におけるプログラム統括責任者ダミアン・クウィリーに話を聞きました。

「感染症の流行は子どもたち、そして女の子や女性に特に深刻な影響を及ぼします」

——新型コロナウイルスの感染が世界で広がるなか、現在、どのような活動をしていますか？

ダミアン・クウィリー（以下、ダミアン）　感染予防の措置を十分に取りながら、啓発活動や衛生用品の提供、保健インフラの支援など、多岐にわたって活動しています。特に女の子や女性へのリスクに対する意識の向上に重点を置き、必要な支援をするために力を注いでいます。また、プランが感染拡大を懸念している難民キャンプの支援にも注力しています。

——今回の感染症対策では、2014年にアフリカでエボラ出血熱（以下、エボラ）に対応した経験が役立っていると聞きました。実際に、現場で支援活動に当たったそうですが、そのときの状況を聞かせてください。

ダミアン　エボラが発生したとき、人々が抱いたもっとも大きな感情は恐怖でした。致死率は新型コロナウイルスよりもはるかに高く、インフルエンザの20倍ともいわれました。メディアは最悪のシナリオを強調し、パニックが蔓延しました。自分自身と家族を感染から守ることを考えながらも、手洗いと隔離について皆の意識を高める必要があることを明確に感じていました。

——そのような過酷な状況のなかで、活動をすすめるために大切にしたことは？

ダミアン　地方自治体や専門性の高いパートナーとの密な連携を心がけました。結果、保健センターの整備や物資の供給、手洗い場の設置、衛生習慣の普及などをスムーズに行うことができました。さらに、地域と協力して、症状のある人々を隔離するコミュニティケアセンターの設置にも取り組みました。これは、感染していない人々の安全を守るために必要なものでした。

——子どもたちにはどのような影響がありましたか？

ダミアン　エボラで親を亡くした子どもたちや、親や兄弟がエボラに感染してしまった子どもたちが特に支援を必要としていました。大切な家族が亡くなるのを目の当たりにしたり、必要な支援を受けられずに孤立したりすることで、子どもたちが受けるショックは相当なものです。子どもたちに食べ物や心身のケア、安全な空間を提供するとともに、親を亡くした子どもたちが、親戚や適切な介護者と一緒に暮らせるように支援しました。

——新型コロナウイルスの感染拡大では、特に女の子や女性への影響が深刻だと言われています。エボラの流行の際にはどのようなことが起きたのでしょうか？

ダミアン　感染リスクを避けるため、妊娠や婦人科系の病気など、定期的な診療が必要な場合でも十分なケアが受けられなくなりました。また、慣習的に病人を介護するのは女性が中心であり、彼女たち自身が感染してしまったケースも多くありました。さらに、経済的な打撃を受けた家庭では、強制的な結婚や早すぎる結婚、人身取引が増えるリスクも高まりました。

——エボラの教訓を生かして、これから私たちに必要なことは何でしょうか？

ダミアン　プランがエボラ危機でもっとも学んだことは、感染症の流行は子どもたち、そして女の子や女性に深刻な影響を及ぼすことです。実際、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、女性に対するドメスティック・バイオレンスの通報や相談が激増しています。感染症対策だけでなく、ジェンダー不平等や社会的孤立が助長されないように配慮する必要があります。

——最後に、日本の支援者へのメッセージをお願いします。

ダミアン　新型コロナウイルスへの感染対策は世界共通の課題であり、世界的な連帯が必要です。国連は、3月に発表した20億ドルのCOVID-19世界人道対応計画を、5月には67億ドルまで大幅に増やしました。

　日本からも多くのご支援をいただき感謝申し上げます。ご存知の通り、私たちが活動している多くの国の子どもたちや若者たちは、すでに非常に困難な生活を送っています。そして、彼らの生活はますます困窮し、女の子や若い女性たちは、これまで以上に私たちの支援を必要としています。皆さまのおかげで、私たちは子どもたちに感染症から身を守る方法を教え、基本的な保健衛生サービスをコミュニティに提供することができます。これからもご支援をよろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、プランが配布した衛生キットと感染予防に関する啓発パンフレットを手にする女性（インドネシア）





右から、エボラウイルスの感染を検査するために設置された簡易テント（2014年／リベリア）。エボラにより娘を亡くし、孫をひきとった男性。娘がエボラに感染したことで近所からひどい中傷を受けたという（2016年／リベリア）。エボラ治療センターで消毒を受ける保健ワーカー（2014年／シエラレオネ）

※このインタビューは2020年5月に行われました

チャイルドの健康と未来を守るために ～新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先にした活動～

新型コロナウイルスの感染拡大は、チャイルドの住む地域にも深刻な影響を与えています。幸いにもチャイルドたちから感染者はでていませんが（6月23日時点）、ほとんどの地域で学校が休校になりました。安全な水や石けんが十分になく医療施設が限られる場所も少なくありません。また、多くの家庭が外出自粛などにより収入源を断たれています。そのなかで、プラン・インターナショナルは、感染拡大予防を最優先して、実施中のプロジェクトを見直すなどの対応を行っています。食料および現金の支給や、公共の場所に手洗い場を設置したり、各国の保健省などと協力して新型コロナウイルスに関する情報を普及する活動をしています。

日々の暮らしが困窮すると、家族が生きていくために女の子と若い女性が性的搾取の犠牲になったり、早すぎる結婚をさせられたりするリスクも高まります。外出自粛が続くとドメスティック・バイオレンス（以下、DV）や虐待も増えます。

これまでの活動で培った経験をもとに、プランはもっとも弱い立場にある子どもや家族に焦点をあてて支援をすべく、政府や行政と協力して活動をすすめています。こうした緊急事態に対して、即座に連携をとって対応ができるのは、プラン・スポンサーシップを通じて築いた、地域との信頼関係があるからです。これまでに実施した活動事例をご報告します。


プランの指導に従って手洗い方法を子どもたちに教える母親（インドネシア）

「プラン・スポンサーシップ」についてはこちら

ホンジュラス

政府が厳格なロックダウン（都市封鎖）措置を実施し、特に農村部の貧しい人々は食料を調達することが困難な状況に直面しています。また、女の子や若い女性への暴力事件の報告件数が増加しました。ロックダウン措置が開始されてから最初の15日間だけでも、DVに関する通報が4,000件以上報告されています。

おもな活動内容

- DVや性暴力の問題に対する意識を高め、被害にあったときの対処法について学ぶことを目的に、ソーシャルメディアキャンペーンを主導。
- 米や豆、バターなどを含む食料と家庭用衛生キットを約4,500世帯に配布。
- ラジオやテレビを通じた教育機会の提供と学習教材を作成。


プランから受け取った食料と衛生キットを家に持ち帰る住民

ギニア

政府は3月27日に非常事態宣言を発令。子どもたちが休校中も学習を続けられるように、教育省はラジオやテレビ、オンラインで授業を再開することを発表しました。

おもな活動内容

- 活動地域に手洗いキットを支給し、啓発ポスターを設置。
- ラジオ放送を通じて感染対策に関する情報を提供。
- 全国35局のネットワークを通じて、コミュニティラジオで放送するための教育コンテンツを制作。
- インターネットの接続環境が悪い地域や、テレビやラジオを持っていない子どもたちに対して、自宅で学習を続けられるように教材を提供。この支援は3～18歳までの200万人以上に届く予定。


休校中に自宅でラジオを聞いて勉強する子どもたち

バングラデシュ

人口密度が高いうえに医療システムが脆弱なため、新型コロナウイルス感染拡大のリスクが高く、重症化した患者の治療も困難といわれています。徹底した感染予防が重要です。2020年3月26日に全国で外出が制限され、学校は休校となりました。


最前線の医療従事者を守るために、個人用保護具400セットを62の保健センターに配布

おもな活動内容

- 身体的距離（フィジカル・ディスタンス）や手洗いの重要性について、コミュニティに周知。
- 医療を専門とするパートナー団体と連携して健康チェックを支援。
- 新型コロナウイルス感染症に関するリーフレットを作成し、1万5,000枚を配布。
- 活動地域の各家庭に対して、米10kgと非常食を提供。

新型コロナウイルス感染症に立ちむかう活動国のチャイルドたち



コンバさん（15歳、マリ）

地域の安全のために、仲間と一緒に自宅でマスクを作ることにしました。プランの研修を受けて、材料を提供してもらい450枚のマスクを作って、高齢者や子どもなど弱い立場の人たちに配布しています。



ユスティさん（15歳、インドネシア）

プランの働きかけによってラジオで教育番組が放送されると知り、それを受講することにしました。でもすべての家にラジオがあるわけではありません。すべての子どもたちにラジオが届くことを祈っています。

新型コロナウイルス感染症が変えた、ナイラの日常

シリアと国境を接するヨルダンに開設されているアズラック難民キャンプには
約3万6,000人が生活しています。紛争で家を追われた難民たちにも
新型コロナウイルス感染症による危険が迫っています。現在、ガールズ・プロジェクトを
通じて支援している難民の女の子たちにどのようなリスクが迫り、
日常がどのように変わったのかをお伝えします。





ナイラは、ヨルダンにあるアズラック難民キャンプに暮らす、13歳の女の子です。プランが支援するワークショップに参加し、難民キャンプ内の学校に通っています。

しかし、3月11日にWHO（世界保健機関）が新型コロナウイルスの世界的流行を発表すると、難民キャンプの外部との人の行き来が禁止になりました。



難民キャンプの中では、日中の大人たちの外出は許されましたが、子どもたちはどんな理由があっても24時間外出禁止になりました。難民キャンプでは、各家庭がせまい空間で生活していますが、学校が休校になり、子どもたちはラジオやテレビで放送される授業を見ながら家で学習することになりました。でも、ナイラをはじめ、女の子は家事の負担が増えたため、十分な学習時間が取れません。

難民キャンプの外で暮らす学校の先生たちは、ソーシャルネットワークを使って子どもたちとの連絡を試みました。しかし、ほとんどの家族が一台の携帯電話を家族で共有しているため、先生たちとも連絡がとりにくくなりました。



こうした状況で、プランのスタッフは各家庭に電話をし、子どもたちと連絡をとりました。スタッフと電話で話したナイラは、やっと心の不安を打ち明けることができました。

難民のなかには、プランの講習を受け、子どもたちのケアなどにあたるコミュニティ・ボランティアがいます。スタッフからナイラの話を聞いたボランティアはナイラの家に行き、ナイラが勉強やトレーニングを受けるときに携帯電話が使えるよう、家族を説得しました。



また、プランはナイラに消毒済みの手芸キットを渡し、グループ通話によるマスク作り講習会に参加できるようにしました。

こうしてナイラの不安は少しずつ解消していますが、新型コロナウイルスとの闘いは、未だ終わりが見えません。ナイラは「自分ができることを探し、励ましあってこの時期を過ごしたい」と話しています。

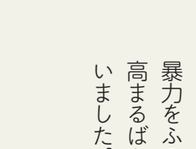


illustration by Noriyuki Goto

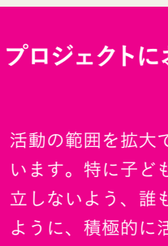


ナイラが生活する難民キャンプには、各家庭にトイレはなく、8世帯でひとつのトイレを共有しています。テントがひしめく難民キャンプは人口密度が高く、医療を受ける環境も十分ではありません。誰かが新型コロナウイルスに感染してしまったら、あっという間に広がってしまうかもしれません。

難民キャンプへの出入りができなくなったことで、マスクや生理用品も不足してきました。さらに、外出ができないストレスから、家族間のトラブルが増えていきました。

「これからどうなるの？」

友人や先生とも連絡が取れないまま、勉強の遅れへの焦りに加え、近くのテントから聞こえてくる怒鳴り声や暴力をふるう音に、ナイラの不安は高まるばかりで、孤独を感じ始めていました。



「シリア難民の女性の安全な居場所」プロジェクトにおけるコロナの影響

アドボカシー・マネジャー　ヒバ・アルヘジャジ

社会のなかでもっとも弱い立場にある人たちが、外部とつながりを持ち続け、守られることがこれまで以上に重要になってきています。プランは日々変化する状況に適応しつつ活動の範囲を拡大できるよう、努力を続けています。特に子どもたち、若い女性たちが孤立しないよう、誰も取り残されることがないように、積極的に活動を続けていきます。

新しいガールズ・プロジェクトがスタート！

●司法と心のケアの両面からサポート「**暴力の被害にあった女の子を守る**」プロジェクト（インド）

●死に至ることもある慣習「**女性性器切除から女の子を守る**」プロジェクト（エチオピア・スーダン）

※このプロジェクトは2017年7月よりエチオピアで実施し、広く行動変容を起こすことができました。2020年7月以降は、施術率が高い、同国内アファール州に活動地域を移します。さらに隣国のスーダンでも支援ニーズが高いため、活動を開始します。

2020年7月から新プロジェクトが始まります。活動内容の詳細はウェブサイトをご覧ください。

ラオス

新型コロナウイルスの影響を乗り越え 新しい教育プロジェクトが本格始動へ

2019年12月、ラオス北部のウドムサイ県で、新しい教育プロジェクトがスタートしました。
本格的な活動に入ろうとしていた矢先、新型コロナウイルスの影響で
一時活動がストップしましたが、5月ごろから少しずつ再開のめどが立ち始めました。
プロジェクトの準備から現在までの状況を、現地に赴任した鈴村職員がレポートします。



レポーター：プログラム部／
鈴村久美子職員



ラオスってどんな国？

1953年にフランスから独立。東南アジアの内陸部に位置し、50の民族・言語の人々が暮らしています。近年は徐々に経済発展を遂げていますが、地域格差が大きく、特に少数民族の人たちが暮らす山岳地域には、貧困や教育格差など深刻な問題が残っています。



ウドムサイ県に暮らす
少数民族の子どもたち

貧困と言葉の壁に直面する山岳地域の子どもたち

首都ビエンチャンから飛行機で1時間、さらに車で3時間半をかけて到着するのが、活動地域となるウドムサイ県パクベン郡です。ここは、経済成長を遂げつつある首都と本当に同じ国なのだろうかと思うほど状況が違います。絶対的貧困率※は38・1%と、全国でもっとも貧困が深刻な地域のひとつです。

ここに暮らす人々の多くは、ラオス語を母語としない少数民族です。小学校の授業はラオス語で行われますが、入学前にラオス語を十分に学べなかった子どもたちの多くは、入学とともに言葉の問題に直面します。授業で使われるラオス語が理解できず、ついていくことができないのです。さらに、親も教育の大切さを理解していないことが多く、子どもに学校を休ませ、農業の手伝いをさせることもよくあります。こうして子どもたちは留年、さらに中途退学をしてしまいます。本プロジェクトは少数民族の子どもたちが、就学前にラオス語などの基礎的な学力を身につけることができるよう、幼稚園の建設、教材の支給、教師の能力強化、保護者への啓発活動を通して、学習環境を整えることを目的にスタートしました。

事前の調査で子どもたちの学力の低さが浮きぼりに

プロジェクトでは、学校での活動が本格的に始まる前に、対象地域の村で調査を行いました。小学校に入学する直前の子どもたちの学力調査、教師の授業参観、保護者へのインタビューなどを通して、プロジェクト実施前の状況を正確に把握することが目的です。

調査で明らかになったのは、ラオス語の理解度や空間把握能力など、子どもたちの基本的な学力の低さでした。また、全体的に男の子よりも女の子の状況が深刻であることがわかり、その背景にある問題や、プロジェクトを通してどのように女の子の状況を改善していくかも課題となります。



プロジェクトを実施している村は、険しい山々の中にあります



学校には手洗い方法を伝える
ポスターを掲示しています

新型コロナウイルスの影響で授業も中断したが…

2020年3月中旬、これから本格的に活動を開始しようとしていた矢先、ラオスでも新型コロナウイルスの感染が発覚しました。国境が封鎖され、4月からは不要不急の外出禁止が発表されました。プロジェクト対象地域の幼稚園と小学校も閉鎖され、すべての活動を一旦中止せざるを得ませんでした。ラオスの医療水準は非常に低く、感染者が増えれば容易に医療崩壊が起きてしまうため、国全体で非常に強い措置がとられ、人々の緊張感も高まりました。

こうした事態を受け、プランは緊急支援を開始。幸いにも感染者は計19人に抑えられ（5月10日時点）、5月初旬からは外出が緩和され、幼稚園と小学校も6月初旬から再開し、元気な子どもたちの声が学校に戻ってきました。学校再開にあわせて、プロジェクトでも衛生キットや衛生習慣を徹底するための啓発ポスターの配布を行いました。子どもたちを感染リスクから守り、学校が安全に継続的に運営されるよう、サポートしていきます。

本格始動にむけて

今後は、感染予防を行いながら、中断していた活動を急ピッチですすめていきます。まず、9月に新学期を迎えるまで、幼稚園、小学校の先生たちへのトレーニングをすすめます。また、現在、幼稚園がない9つの村では、今年1年生になる年齢の子どもたちを対象に、夏休みの期間を利用して就学準備コースを実施します。ラオス語の習得向上を中心に、集中的な授業を行うとともに、すべての子どもたちが小学校に就学するよう保護者に働きかけていきます。

新型コロナウィルス感染症は、山岳地帯の少数民族の子どもたちにも大きな影響を及ぼしました。これまで十分な教育の機会が得られなかった子どもたちが、これ以上教育から取り残されることがないよう支援を届けていきます。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いします。



学力調査を受ける子どもたち



調査を担当するプランの職員と県・郡の行政職員向けに行った事前トレーニング。幼い子どもたちが緊張することなく調査に参加できるよう、ロールプレイで練習を行いました



新学期の完成を目指して幼稚園の校舎建設をすすめています

忘れられない ある校長先生の言葉

ある村で出会った小学校の校長先生の言葉が忘れられません。プロジェクトについて話をすると、先生は「過去にも何度か村には支援が入ったことがある。しかしどれもうまくいかず、学校を辞めていく子どもたちがあとを絶たない。自分ではもうどうしたらいいのかわからなかったが、今回、もう一度一緒に考えてみたい」と言いました。この言葉に、村が抱える問題の深さ、問題を解決することの難しさを痛感しました。そして同時に、村の人たちの希望につながるようなプロジェクトにしていこうと、あらためて気を引き締めました。

新しいグローバル・プロジェクトがスタート！

将来の選択肢を自分の手で広げる

「少数民族の子どもの教育」プロジェクト（ラオス）

※このプロジェクトは外務省（NGO連携無償資金協力）
との協力によるものです

活動内容の詳細は、同封のチラシもしくは
ウェブサイトをご覧ください

※生きるうえで必要最低限の水準に達していない絶対的貧困者が、その国や地域の全人口に占める割合

医療アクセスの改善を目指し 4カ国でプロジェクトを支援

世界には、乳幼児や妊産婦の死亡率が高く、医療アクセスの課題を抱える貧困地域があります。そうした地域へむけた活動を9年間にわたり支援してくださっている、第一三共株式会社のサステナビリティ推進部の皆さまにお話をうかがいました。



写真左から、山本 潤さん、渡部 修さん、高橋佳菜子さん

渡部 修さん　山本 潤さん　高橋佳菜子さん

第一三共株式会社　サステナビリティ推進部　環境経営・グローバルヘルスグループ

移動診療車による巡回診療が命を救う

弊社の企業理念は「革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」です。

サステナビリティ活動を通じ、これを実現するパートナーとしてプラン・インターナショナルを選定し、プロジェクトがスタートしたのは2011年です。これまでカメルーンとタンザニアでそれぞれ移動診療車を使った巡回診療プロジェクトを、また中国で母子保健に関わる医療従事者の育成と保護者への意識啓発プロジェクトを協働しました。現在は、ミャンマーでの巡回診療プロジェクトが進行中です。

途上国でも首都や大都市では近代化がすすみ、きれいな病院があることも珍しくありません。ところが車で数時間ほどのエリアでは、助産師などの保健スタッフがひとりですべての医療に対応しているという場所もあります。さらに、現地の慣習や伝統医療により、適切な医療行為がなされないまま、母子が命を落としたり、障がいを負ったりすることもあります。



ミャンマーの巡回診療プロジェクトでは、子どもの成長を測定し、栄養不良と診断された子どもの保護者には、カウンセリングと個別指導を行う



タンザニアで使用した移動診療車。プロジェクト終了後も大切に活用され続けている

受け入れられやすいアプローチを選択

世界の医療格差をなくしていくことは製薬会社である弊社に課せられた使命の一つですから、プランには現地の人に受け入れやすい方法を見極め、活動をすすめていただいています。

たとえばタンザニアでは、歌や劇を通して正しい医療知識を広める、中国では村医と住民との信頼関係を築くために双方向でコミュニケーションをとる講義の方法を指導する、といった具合です。こうしたアプローチの取捨選択ができるのは、地域に根差した活動を行うプランならではと感じます。

あらゆる人の健康的な生活の確保のために

私たちの活動の最終目標は、プロジェクト終了後も、現地の人たちが自分たちだけで活動を引き継ぎ、発展させられるようになることです。プロジェクトを終えた3カ国ではそれが叶い、タンザニアでは住民たちが寄付を募ってヘルスセンターの建設が行われるといった行動変容にもつながりました。中国でも、対象とした地域外まで母子の健康、栄養管理についての意識啓発活動などが広まっています。

今後も「社会にとって必要であり、存在を望まれる企業でありたい」、そういった気持ちで、支援を続けてまいります。

ミャンマーの「巡回診療プロジェクト」

ミャンマーの保健医療分野は、母子保健の状況が特に悪く、とりわけ農村部では保健サービスが住民に広く届いていません。5歳未満児死亡率の改善には、母子保健サービスを始めとする基礎保健サービス強化が必要です。本プロジェクトでは巡回診療、保健医療従事者の能力強化、意識啓発活動等を通じて医療アクセスの改善を図るとともに、地域住民が主体となり、自らの力で問題解決していくための環境づくりに取り組みます。

栄養と教育の環境を変えて 子どもたちの生活を改善したい



世森 治さん

1つのプロジェクトを複数人で支援する「一口100万円プロジェクト」は、年に2回募集を行っています。カンボジアにおける「乳幼児の栄養と教育改善プロジェクト」は、今秋から実施されます。いち早く、このプロジェクトに支援を決めてくださった世森 治さんにお話をうかがいました。



建設予定の就学前教育施設（写真は以前建設されたもの）



活動内容の1つ、栄養不良児の特定のため、乳幼児の腕回りを計測して発育状態を確認

環境が改善されれば多くの子どもが変わる

プラン・インターナショナルを知ったのは1993年、おそらく新聞広告だったと思います。それまでも途上国支援には興味を持っていたものの、特に行動に移してはいませんでした。それがプランの広告を読んだとき、「環境を変える」という部分に心を動かされたんです。

厳しい環境に生まれ、貧しい生活を余儀なくされている途上国の子どもはたくさんいます。だから一人の子どもだけを支援するのではなく、子どもを取り巻く環境を変える必要があります。地域がよくなれば、多くの子どもたちの生活が改善される、その考えに共感しました。以来、27年間、プラン・スポンサーシップの支援を続け、ときには緊急・復興支援にも参加していま す。

チャイルドとの手紙で学校建設の重要性を実感

プラン・スポンサーシップではチャイルドたちと手紙の交流ができるといった点にも魅力を感じました。

手紙には、学校に行ったこと、施設が整っていることなどが書かれていることが多かったので、学校建設を目的とした支援を考えていました。

今回のカンボジアにおける「乳幼児の栄養と教育改善プロジェクト」への参加を決めたのは、「環境を変える」という部分で、教育施設などのインフラ整備に支援金が使われるためです。

またプランの活動の中で女の子を支援する「Because I am a Girl」にも少なからず関心を持っていましたので、栄養改善トレーニングの活動を通して妊婦さんや乳幼児のケアもできるといった点にも魅力を感じました。

生きた証として名前入り記念プレート

現在年金生活ですから100万円は大きな金額ですが、会社員時代にコツコツと貯めた貯金と、投資などで多少得たお金をプラスして、思い切って支援を決めました。

大病を患い、体力的にプロジェクトの完成時にカンボジアへ行くのは難しい状況にあります。それでも現地に記念プレートを設置してもらえますから、自分が生きた証として、いい記念になると思います。

カンボジアにおける「乳幼児の栄養と教育改善プロジェクト」

このプロジェクトは、おもに5歳未満の子どもが直面している2つの問題を解決するために実施されます。1つは子どもの栄養不良の問題、もう1つは就学前教育施設の不足です。どちらもこの時期の子どもたちの健やかな発育を阻害する大きな要因となっています。このプロジェクトでは、保護者や教師への栄養知識や指導方法についての能力強化とともに、関係者による定期的な協議の場を整えることで、知識の定着と活動の持続性を高めます。また就学前教育施設を建設し、子どもたちの学習環境を整備します。子どもたちが幸せで健康に育つようご協力をお願いします。詳しくは同封のチラシをご覧ください。



遠い国の女の子の親になりました！

どんどん成長していくチャイルド いつか一緒に絵を描きたい！

プラン・スポンサーシップをスタートしたばかりのスポンサーの方へのインタビュー。
今回ご紹介する松浦さんは、休日にも独自に支援活動をしてくださっています。

スポンサー **松浦由季**さん　チャイルド **ウェンディ**ちゃん（9歳）／ケニア

チャイルドの成長に感激 プラン・スポンサーシップの支援

昨年7月から、プラン・スポンサーシップを通じ、ケニア在住の女の子、ウェンディちゃんと交流しています。

私が途上国支援に興味を持ったのは中学生のころです。世界には自分よりもっと厳しい環境で生きる人たちがいることを知り、お小遣いをもらっていない自分でも何かできることはないかと、支援団体宛てに手紙を書いたこともあります。そんなこともあって、自分で稼げるようになったら支援をしようと決めていました。

数年前に、プラン・インターナショナルの電車広告で「女の子だから教育を受けさせてもらえない」といった文章を読んだとき、子どものころ、サッカーチームに入ったら「女の子なのに？」と言われた悔しい思い出がよみがえりました。子どもたちが知り得る世界は狭いですから、手紙を通じてチャイルドになった女の子の視野が広がったり、考えるきっかけを与えたりできたらと、支援を決めました。

ウェンディちゃんからはこの8カ月間で3回手紙をもらいました。もらうたびに彼女の字や絵が上達していくのが見て取れ、元気をもらっています。いつか現地に行って一緒に絵を描けたらと思うと、ワクワクします。



ウェンディちゃんから届いた手紙。短期間ながら、どんどん筆圧が濃くなり、しっかりした字になっているのが分かる

松浦さんとウェンディちゃんのこれまでの交流記録

- 2019年 6月：交流スタート。ウェンディちゃんから初めてのお手紙が届く
- 7月：ウェンディちゃんにお手紙を送付
- 9月：ウェンディちゃんにカレンダー付グリーティングカードを送付
- 11月：ウェンディちゃんからお返事が届く
- 2020年 2月：ウェンディちゃんから3通目のお手紙が届く

自分なりの支援に挑戦 チャリティペインティング

昔から絵を描くことが好きで、介護の仕事のかたわら絵の仕事もしています。描くことで誰かを幸せにしたいと、今年から個人的な支援活動も始めました。チャリティペインティングと銘打って、お店の窓を飾る絵を私が描き、その報酬を貯めて全額プランの支援に充てる活動です。

これまでも休日を使っていろいろなお店の窓に絵を描かせていただいてきました。その際、もっと自分の想いを伝える方法があるのではないかと模索し、この方法が自分らしい支援なのでは、と考えたのです。お店にはプランの活動を紹介するチラシを置いてもらうことにしました。目下、写真共有のSNS「インスタグラム」を通じても、プランへの参加を呼び掛けています。

先日は歯科医院の窓に描かせてもらいました。インスタグラムで私の活動を知った歯科の先生の娘さんが、親御さんと相談して連絡をくれたんです。

絵を描くにあたっては、事前に現場の写真や動画を送ってもらい、お店の方の思いやご希望をお聞きしたうえでモチーフを考えます。今回はキッズスペースの窓に描くことになっていたので、先生からは「違和感なく溶け込み、明るい雰囲気で」とご要望をいただいていました。そこで黄色いミモザを描いたところ、「イメージとぴったり。春が終わってもこのままにしたい」と、とても喜んでもらえました。

準備から制作まで時間をかけて自分のペースで続けているので、いつ目標金額に達するかは分かりません。それでも、賛同してくださるお店の方々との出会いもあり、やりがいを感じています。

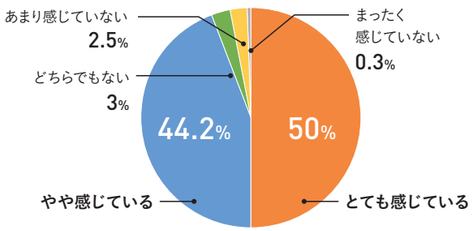




チャリティペインティングを実施した歯科医院とベーカリーの窓の前で。来院・来店した方たちにむけ、お手製の募金箱も設置。これもプランの支援に充てられる

アドボカシー

新型コロナウイルス感染症が及ぼす日本の女の子への影響や政府への要望に関するアンケートを実施



プラン・インターナショナルは、新型コロナウイルス感染症による若い女性への影響を調べるため、感染が急激に拡大していた4月に緊急アンケートを実施しました。15歳から29歳の女性364人から回答を得て、アンケートに寄せられた声からみえてきた課題に基づき、日本政府へ要望書を提出しました。

アンケート結果では、全体の94・2%が何らかの不安を抱いており、新型コロナウイルスの感染以外に、二次的被害として経済的影響への心配などがあげられました。実際に収入が減ったのは32・4%、中長期的な不安で失業と収入減をあげたのは42・4%です。

政府に中長期的にして欲しい対策でもっとも多かった回答は、「生活困窮者の支援」で63・2%でした。また、41・8%が「ドメスティック・バイオレンス（以下、DV）、子どもへの虐待防止、被害者救済対策の強化」をあげ、暴力被害への懸念があることもわかりました。

「女性である」という理由で受ける影響としては「家事・育児の負担増加」、女性は非正規雇用者が多いことから「収入減や解雇等の経済的な懸念」、ほかには「妊娠・出産への不安」、「DVや性暴力の被害リスク」などがあげられました。また障がいのある女性、セクシュアル・マイノリティ（LGBTQ+）、外国人・外国にルーツがある女性から、差別や困難への懸念も確認されました。

ジェンダー格差が大きい日本では、これからも長期的に、社会的に弱い立場に置かれた女性が影響を受けることが予測されます。私たちは今後も、多様な女の子や女性が声をあげる機会をつくり、政府の新型コロナウイルス感染症対策に当事者の意見が反映されるように活動をしていきます。

アドボカシー

子どもの権利を守るため提言書を提出

プランは4月6日、子どもに対する支援を実施する主要な3つの国際NGOと共同で、新型コロナウイルス感染症による影響から子どもの権利を守るために、政府開発援助（ODA）による支援の拡充を求める提言書を発表し、外務大臣をはじめ国会議員の方々へ提出しました。翌4月7日にはプラン独自で、今回のパンデミック（世界的流行）に対し、開発途上国における対応および人道支援に関する声明を発信しました。

また4月14日には6つの国際NGOと共同で、パンデミックと子どもの権利に関する公開書簡を発表するなど、積極的な情報発信を行っています。提言書はプランのアドボカシーのページでお読みいただけます。

アドボカシー（政策提言）についてはこちら



学校が休校になり、自宅で学びを継続するニジェールの女の子



丸みのあるかわいらしいフォルムが特徴のショナ彫刻

COFFEE BREAK　職員が紹介するカルチャー

ジンバブエ・ショナ族の伝統芸術「ショナ彫刻」

紹介する人：プログラム部　**村松良介 職員**

私が赴任していたジンバブエでは、「ショナ彫刻」が有名です。これはジンバブエの最多民族、ショナ族が伝統的に作ってきた彫刻です。「ジンバブエ」という国名はそもそもショナ語で「石の家」を意味し、昔から石に親しんできた民族の歴史が感じられます。ひとつの石を丁寧に削って磨き上げ、人や動物などを形作ります。丸みを帯びた形をしており、中には親子が抱き合っているなど愛を表現したものも多く、見ていると温かい気持ちになります。

プラン・インターナショナルの新型コロナウイルス対策へのご理解とご支援をありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔み申し上げるとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、日本をはじめ世界中で活動する職員の働き方、そしてご支援者の皆さまとのコミュニケーション方法に変更が生じました。
これまでの事務局の動きについてご報告します。なお、最新情報はウェブサイトにてご確認ください。

「新型コロナウイルス対策緊急支援」にご支援ありがとうございます





2020年3月31日より「新型コロナウイルス対策緊急支援」を実施しています。これまでにたくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございます。この緊急支援により食料支給や衛生キットの配布、休校中の教育支援など、さまざまな支援を約2,520万人に届けることができました。(6月5日時点)

感染症流行時には、女の子や女性が受ける影響が特に大きいとされています。プランは、女の子や女性への配慮を十分に行い、予防や治療においてジェンダーに基づく差別が起きたり、助長されたりすることのないように、感染拡大防止にむけた活動をすすめてまいります。

ご支援をいただいた皆さまに心よりお礼を申し上げるとともに、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

オンラインでの報告会や交流会を開催しています

ご支援者の皆さまとのコミュニケーションの場として、オンラインでの報告会や交流会を開催しました。5～6月にかけて、アジア、アフリカ、中南米にチャイルドをお持ちのスポンサーの方で、且つメールマガジンにご登録をいただいている皆さまを対象にオンラインでの報告会を実施しました。駐在員など、現場で活動する機会が多いプログラム部の職員より、地域ごとの活動状況や新型コロナウイルス感染症の影響についてお話させていただきました。さらに、通常は月に一度、事務局で開催しているプランの支援者説明会「プラン・ラウンジ」もオンラインで実施しました。参加者からは、「現地の様子がよくわかった」「地方在住のため、オンラインで参加できて満足」という感想をいただきました。



今後もより多くの支援者の皆さまとつながりを持てるように、オン・オフ両輪でさまざまな企画を考えてまいります。これを機会に、メールマガジンのご購読やマイ・プラン・ページへのご登録をぜひよろしくお願いいたします。

事務局対応業務について

4月7日以降の緊急事態宣言発令期間中は、オンライン以外の各種業務を大幅に縮小、もしくは一部停止とし、皆さまにはご不便をおかけいたしました。

宣言解除後も、当面の期間、事務所へ時差出勤および在宅勤務を併用して業務に対応しています。郵便物などの受領、お届けは再開していますが、受付や発送にこれまでよりも時間を要しています。

引き続き、ウェブサイトやSNSなど、オンライン上で活動地域での感染症対策をはじめとするさまざまな活動や支援の成果をお伝えします。

今後とも工夫して皆さまとコミュニケーションをとってまいりますので、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

各種お問い合わせについて

電話受付▼
電話の受付を停止しております。ご連絡は、ウェブサイトの「お問い合わせ」よりお願いいたします。再開する場合はウェブサイトでお知らせします。

ウェブ・メールでのお問い合わせ▼
通常よりお時間をいただきますが、5営業日以内にご連絡いたします。

郵送物▼
6月1日からは郵送物の受領を再開していますが、発送はごく一部に限定されています。今後、変更がある場合はウェブサイトでお知らせします。

チャイルドへのお手紙について
(プラン・スポンサーシップでご支援いただいている皆さまへ)

オンライン▼
順次受け付けておりますが、現在、活動地域が感染症対策を最優先に取り組んでいるため、現地への転送も当面の間停止しております。状況が改善しましたら順次発送再開します。

郵送▼
事務局でお預かりし、活動地域の状況が改善次第、順次発送再開します。

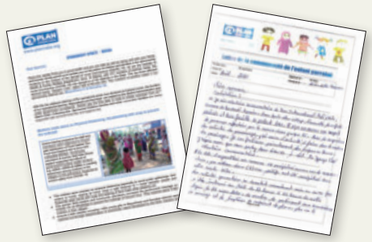
※上記の内容は状況により変更になる可能性があります。

新型コロナウイルス対策に関する特集ページを立ち上げました

プラン・インターナショナルは組織を挙げて感染拡大予防に取り組んでいます。特集ページでは、各国別のプランの活動状況や、日本国内で若い女性や女の子への影響調査とアドボカシー活動、さらに親子向けコンテンツなどをご紹介しています。今後も最新の関連情報を随時更新してまいります。
https://www.plan-international.jp/special/coronavirus_info/



プランの新型コロナウイルス対策　特集ページ



各活動地域からオンラインで届いたレポートとコミュニティ・ボランティアの手紙

活動地域からお手紙が届きました

支援者の皆さまに各活動地域の様子をお伝えするとともに、支援者の皆さまのことを心配する手紙が多数届いています。

感染拡大防止のため、プラン職員のコミュニティへの立ち入りが禁じられている活動地域も少なくありません。そうした地域では、電話やメール、SNSなどを駆使してコミュニティ・ボランティアと連絡を取り合い、コミュニティやチャイルドの様子を確認し、その状況をレポートしてくれています。翻訳した内容は特集ページ内「活動地域からの手紙」よりご確認いただけます。

あなたも参加しませんか?

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

「プラン支援者の会」は、全国各地の支援者の皆さまが任意で活動を行っています。「ほかの支援者のみなさんと話がしたい」「志を同じくする方々と楽しく活動がしたい」とお考えの方、お近くのプラン支援者の会に参加してみませんか?

※いずれのイベントも新型コロナウイルスの感染状況によっては断りなく中止となる場合があります。

Wウェブサイト fフェイスブック　左記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai

プラン名古屋の会 W f

❶「8月定例会」
- 日時：8月22日（土）13～17時
- 会場：イーブルなごや/名古屋市中区大井町7番25号
- 内容：プランの池上理事長から理事会説明、理事長から見た事務局や活動現場について。プラン職員から事務局の組織体制、最近の動き、支援者の会への取り組みについてお話いただきます。定例会後18時から懇親会を行います。
- 参加費：定例会500円、懇親会4,000円程度
- 定員：未定（30名程度の予定）
- 申込締切：8月15日(土)（定例会と懇親会は同時に申し込んでください）

❷「国際交流フェスティバル“ワールド・コラボ・フェスタ2020”」出展
- 日時：10月10日(土)～11日(日) 10～18時
- 会場：オアシス21「コラボ広場」一般ブース／名古屋市東区東桜1-11-1
- 内容：プランの紹介と資料配布

※両日とも終了後、懇親会あり。どなたも参加自由ですので、ぜひおいでください。

❶❷ともに
- 連絡先：プラン名古屋の会
Mail:info@plan-nagoya.sakura.ne.jp
http://plan-nagoya.sakura.ne.jp
TEL：090-8076-2278（安藤良一）

プラン広島の会 f

「チャイルドへのお手紙書き会」
- 日時：9月20日(日)　14～16時
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ フリースペース(2Fまたは3F)/広島市中区袋町6-36
- 内容：チャイルドへの手紙書き
- 参加費：無料　※事前申込不要
- 連絡先：小村
Mail: naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン神奈川の会

「チャイルドへのお手紙書き会」
- 日時：9月下旬～10月のいずれか日曜日 13時半～16時半（日時詳細はお問合せください）
- 会場：戸塚区総合庁舎　多目的スペース　小または中会議室(予定)/横浜市戸塚区戸塚町16番地17
- 内容：プラン職員によるお手紙書きについての説明、質疑応答の後、チャイルドへの手紙書き。終了後は懇親会も予定しております。事前にお申し込みください。
- 参加費：500円（懇親会の会費は別途）
- 連絡先：三橋
Mail: nm421223@icloud.com

プラン千葉 W

「秋の例会」
- 日時：10月18日(日)　13時15分～16時半
- 会場：千葉市民会館　会議室/千葉市中央区要町1-1
- 内容：チャイルドへの手紙書き　ほか
- 参加費：500円
- 定員：先着30名
- 申込締切：10月16日(金)
- 連絡先：前田
Mail: e_maeda@yellow.plala.or.jp

■支援者の会に関するお問い合わせ先：リレーション開発部　Mail: p-kai@plan-international.jp
※「プラン・ニュース」No.115は、2020年10月上旬にお届け予定です。

手洗いをして感染予防

プラン・インターナショナルの活動地域から

プランが活動する地域では、日ごろからトイレや手洗い場の設置や、手洗いを含めた衛生知識の普及と定着にむけた活動を行っています。地域の人々が身につけた衛生知識や習慣が、新型コロナウイルスなどの感染から住民たちを守る防波堤になります。
各地でプランがどんな活動をしているのか、具体例をいくつかご紹介しましょう。



Cambodia

カンボジアでは、学校や地域において衛生の設備が不足し、衛生習慣が身についていないことが問題です。このため、手洗い場やトイレの設置などにより、子どもたちが安心して通学できる環境を整備しています

Nepal



ネパールの山岳地域では、安全な水にアクセスするのが難しい状況です。プランは、給水設備を設置し、住民たちが安全で衛生的な飲料水を得られ、適切な衛生習慣が定着するよう支援しています



Uganda

2013年から、ウガンダに逃れてきた南スーダン難民支援のため、難民キャンプで子どもたちが安全に遊び学べる「子どもひろば」を設置。手洗いなどの衛生教育のほか、栄養サポートなども行っています



Ghana

ガーナでは、衛生設備の建設や手洗いの重要性に関する教育活動を通じて、感染症予防を支援しています。プロジェクトに参加した女の子たちも、積極的に啓発活動を推進しています

Haiti



ハイチでは、政情不安や自然災害の影響により、安全な水や衛生施設の利用が限られ、保健や教育サービスが不足しています。プランは、家庭トイレの建設支援や、衛生習慣の啓発活動を続けています



Peru

政治的に混乱するベネズエラからペルーに逃れてきた子どもたちが安心して遊び学べる「子どもひろば」を提供。子どもたちは手の消毒を徹底してから入室し、安全に過ごすことができます

プランのSNSをフォローしてください

プラン・インターナショナルのFacebook、Instagram 、Twitterで活動国の情報や事務局の日々のあれこれを発信中！

※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。

マイ・プラン・ページにご登録はお済みですか？

マイ・プラン・ページにご登録いただくと、登録情報や現在のご支援内容を確認できるほか、限定コンテンツもお読みいただけます。また、スポンサー番号やチャイルド番号が自動表示され、入力の手間なくチャイルドへお手紙を送付できます。

ご登録はこちら



トップページには、支援者の方に関連する最新のお知らせが表示されます

PLAN NEWS
2020 SUMMER NO.114

表紙写真：インドネシア

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

※当面の間、ご連絡はウェブサイトの「お問い合わせ」フォームよりお願いいたします。